

# 図書館だより

93. 12

## 『自著を語る』

杉崎 泰一郎（西洋史）

まず最初に断っておかなければならない。この本はいろいろな理由から「自著を語る」というコーナーにふさわしくないということ。第一の理由。これは僕の著書ではない。翻訳である。しかも友人と二人で行った共訳だから「自訳を語る」にもならない。友人が本文を、僕は史料部分を訳し、互いに翻訳原稿を交換して原文と照合しながら入念にチェックをした。

この本の著者はフランス中世史学会の大御所、ジョルジュ・デュビイ（Georges Duby）。彼は1919年、パリに生まれ、リヨン大学で学んだ



ジョルジュ・デュビイ著  
『中世のヨーロッパ（芸術と社会）』  
池田健二／杉崎泰一郎訳 藤原書店

### 目 次

『自著を語る』 杉崎泰一郎 -----1	卒業生からのメッセージ 中嶋みゆき ----- 7
新しい雑誌です ----- 3	クリスマスと私 江口道子 ----- 9
座談会：図書館を語る ----- 4	このごろ感じることなのですが… ----- 10

後、大学での教授活動のかたわら数々の名著を発表し、1987年にはアカデミー・フランセーズの会員に選ばれた。なかでも1981年に公刊された『中世の結婚—騎士、女性、司祭』（篠田勝英訳 新評論 1984年）はフランスで10万部以上の売れ行きをしめし、10か国以上で翻訳書が刊行されるベストセラーとなった。これは中世の貴族（騎士）社会における結婚のありかたを通して、当時の社会構造を論じた画期的な研究である。また、彼は結婚というものを単なる制度としてではなく、男と女の関係として捉え、「男性史」として書かれてきた歴史書を克服して、「女性」の存在を研究対象として積極的にとりあげた。その後デュビイはフランス女性史学の大家、ミシェル・ペロー（Michelle Perrot）とともに『女性の歴史』（全五巻）を編集した。この邦訳は93年末に藤原書店から刊行される予定である。デュビイは研究を発表する際に、常に膨大な文書史料の分析を土台とした、緻密な論証を行ってきた。1953年に公刊された博士論文では、ともすれば無味乾燥に思われがちな訴訟史料を徹底的に分析することによって、封建社会の人間関係を生き生きと蘇らせた。そこで彼が提唱した「城主支配権」というタームは、封建社会の権力構造を説明する際にいまでも使用されることがある。

今回翻訳を終えた『中世のヨーロッパ—芸術と社会—』（フランマリオン社 1979年）は、中世の社会について、文書史料の他に芸術作品を中心とした視覚的な史料を駆使して論じた独創的な研究書である。本書の3分の1は図版、3分の1はデュビイの解説（本文）、3分の1は文書史料という構成である。ヨーロッパに多数残存する中世の遺構、すなわち修道院、大聖堂、城塞といった建造物や、壁画、彫刻、写本挿絵、ステンドグラスといった美術作品が図版として掲載されている。それらは歴史の証言者として、中世の社会について雄弁に語りかけてくる。写真の質も優良で、大手出版社の美術書

にひけをとらない。紀元千年ころの写本芸術、12世紀に全西欧に建てられ、刻まれたロマネスク芸術、13世紀に建てられたゴシックのカテドラル、そして中世末期の終末観に満ちた図像に目を通すことで、中世を生きた人々の創造力（イマジネール）や、社会的表象（ルブレザンタシオン）を理解することができよう。

図像に負けず劣らずすばらしいのがデュビイの本文である。説明の内容はもちろん、語り口が見事だ。「歴史に真の生命を与えるのは、歴史家の想像力と文章力である。」というのはデュビイの言であるが、これが「筆先三寸」でないことは本書を読めばわかる。その文章は格調高く、まるでラテン語で書かれた年代記を読んでいるようだった。しかし原文が英文であるだけに、これを日本語にするのは楽ではなかった。文法的にはそれほど難はなかったのだが、言葉の一つ一つにこめた深い味わいを生かしつつ日本語に置き換えるのは至難のわざだった。苦境に追い込まれて思ったのは、自らの日本語能力の拙劣さで、仏和辞典のほかにも国語辞典や類語辞典も使用した。

ちなみに本書の章だけは以下の如くである。

- 第一章 紀元千年
- 第二章 神の探究
- 第三章 神は光なり
- 第四章 大聖堂、都市、学校
- 第五章 王国
- 第六章 諸国民の抵抗
- 第七章 14世紀の転換
- 第八章 幸福
- 第九章 死

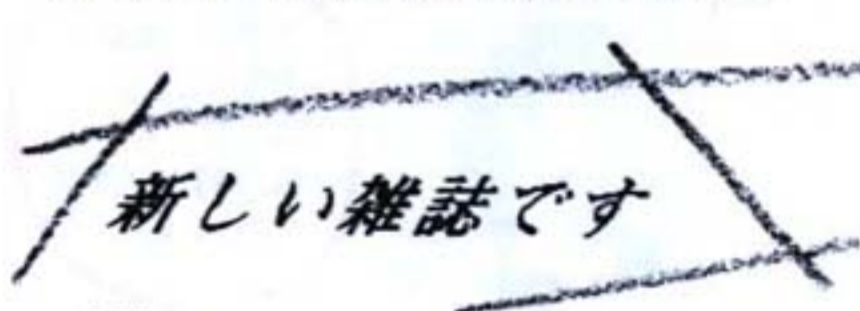
中世史、中世文学の研究者や愛好家は、表題を見ただけで、そこにこめられた意味を察知するのではないか。ここにあるのは、それぞれの時代を読みとくための9つの鍵といってもよいのである。

これら各章ごとに、それぞれの時代を生きた人々の生の声ともいえるべき文書史料が掲載され

ている。そのジャンルは広く、アイスランド・サガやアスプルモンのような文学作品や、都市法、年代記、日記、贖罪規定書、はては映画『薔薇の名前』で有名になったベルナルド・ギーの異端審問官提要や14世紀バリの料理用レシピまである。これは中世史の主要史料のダイジェスト版といってもよい。このようにデュビイは視覚史料と文書史料をみごとに操りながら、みずからの絶妙な解説で読者を中世の世界

へ誘ってくれる。ちなみに類書はなく、企画そのものが斬新で独創的だ。

実はこの翻訳はまだ出版されていない。翻訳原稿を出してかれこれ一年がすぎ、広告が出て半年になるのだが、出版の順序が回ってこない。これも「自著を語る」コーナーに不適格な理由のひとつだ。ともかくこの図書館だよりが出たときには出版済であることを祈ります。

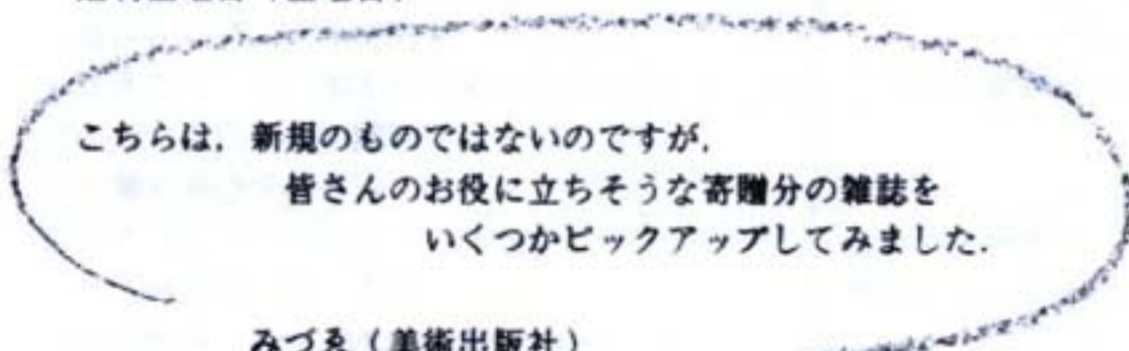


<本館>

- 季刊子ども学 (福武書店)
- 季刊窓 (窓社)
- リテール 別冊共 (メタローク)
- 社会文学 (日本社会文学会)
- 週刊金曜日 (金曜日)

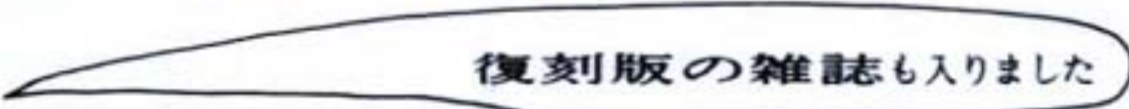
<花川館>

- 栄養新報 (日本栄養新報社)



こちらは、新規のものではないのですが、  
皆さんのお役に立ちそうな寄贈分の雑誌を  
いくつかピックアップしてみました。

- みづゑ (美術出版社)
- アトリエ (アトリエ出版社)
- 史学雑誌 (山川出版社)
- EQ (光文社)
- エラリクイーンズミステリマガジン (早川書房)



復刻版の雑誌も入りました

- 帝国文学: 復刻版 (日本図書センター)
- 少年世界: 復刻版 (名著普及会)
- 女性: 復刻版 (日本図書センター)
- 女性日本人: 復刻版 (クレス出版)

## 座談会

## 図書館を語る

文国3年沖寄さん  
学外の短期大学より  
編入学。

保育1年五十嵐さん  
今年度、本学家政科より  
再入学。

文芸3年萬谷さん  
本学の短大より  
編入学。  
花川館もよく利用  
しています。

文国4年角尾さん  
図書館をよく利用  
しています。  
購入希望も(99)

司会 この度はお忙しい中、快く引き受けて下さってありがとうございました。日頃、皆さんがどのような目的で、又どのような形で図書館を利用しているかお聞きしたいと思います。

まず、普段どのように図書館を利用していますか？

角尾 学校に来ている時は、1日1回は図書館に行きます。レポートを書くときは別ですが、読みたい本を見つけては借りています。

司会 どの位の頻度で利用していますか？

角尾 今は4年生なので卒論の関係で、しばらく図書館通いが続いています。夏休みから資料を集め始めて、その頃から毎日のように行っています。

司会 カウンターでもあなたが新着図書をご覧になっている姿をよく見かけていましたよ。沖寄さんはいかがですか？

沖寄 主に使っているのは、ゼミやレポートに必要なものです。雑誌もたくさんありますし、自分で買いたくても買えな

い高価な本がありますね。

司会 参考係によく質問している姿を見かけますね。五十嵐さんは？

五十嵐 去年を抜かして3年目になるのですが、1年目は、時間つぶしに行っていました。今は保育科自体、忙しいですし、レポートなど課題が多いので、よく利用しています。いろいろな折り紙の折り方も知りたいと思って、よく本を借りに行っています。又、保育科のコーナーとしてまとまったところがあるので、そこに行けば何でもありますね。

司会 目録カードは使っていますか？

五十嵐 いいえ。

司会 保育関係のコーナーだけではなく、カードをひくと、それに関連した本で別の所にあるものもわかるのですが、例えば、小児保健。これは、花川館にもあるんですけども…

五十嵐 そうですね。実は一度調べたことがありまして、ショックを受けました。子供の関係の本が花川館にあるんですね。

☆・☆・☆・☆・☆・☆・☆・☆・☆

司会 そういう場合は、どのように対処していますか？ なくては困るけれど、あるもので間に合わせているのですか？

五十嵐 そうしたいのですが、保育科の人数が多いのに、本が少ないので取り合いになるのです。だから、花川館から取り寄せています。コピーをしている人も多いですね。

司会 カウンターでみていると、花川館から取り寄せている冊数はそれほど多くないですよ。土曜日を除いては、予約が入っていない限り、その日申し込んだ本は次の日には利用できるシステムになっているので、ぜひ利用して下さい。萬谷さんはいかがですか？

萬谷 ほとんど毎日行っています。行かないと落ち着かないですね。学校の中に決まった教室が無いので、自分の席を求めて行きます。それに宿題は貯めないように、図書館で勉強しているのです。

全員 へー <感心の声>

萬谷 図書館は知識を得る場所、新しいことを知る場所ですね。

学校に来て、アルバイトなどをしていると、時間が無いので、結局本や新聞からしか知識を得る場所が無いのです。テレビや新聞でも足りない所があるので、もっと深く勉強するのに本を読んでいます。

でも、図書館の中で、国際関係の新しい本は限られているような気がします。ある意味では購入希望を出すことが、“私の義務”だと思っているのです。本というのは、あれば読むし、なかったらその存在を知らないで終わってしまいますよね。自分が関心を持っている本に、他の人も関心を持って手に取ってくれれば、一石二鳥だと思うのですけれども…

☆。☆。☆。☆。☆。☆。☆。☆。☆。☆。

司会 ところで、皆さんは花川館を利用した経験はありますか？

角尾、沖寄 いいえ。

五十嵐、萬谷 はい。

司会 花川館を利用しなくても不便はないですか？

角尾 国文関係のものは、本館に十分あるので不自由したことはないです。それに花川は遠いですし…

司会 利用しているお2人はどうですか？

五十嵐 夏休み中に、レポートを書くために必要な本を探しに行きました。実際に手に取って中身を見たかったので直接行って見たのです。

司会 花川校舎にいたときも花川館を利用しましたか？

五十嵐 図書館には行きましたが、その場でレポートを書いていたので、ほとんど借りませんでした。静かすぎて、落ち着かなかったです。1人が使う机の幅が広すぎましたし、検索キーの音も気になりました。

司会 カードと機械検索はどちらがよいですか？

五十嵐 機械検索の方が好きでした。1つのことだけでなくそれに関連したことが出てくるので便利でした。

萬谷 はじめはカードよりずっと時間がかかって人に迷惑をかけていました。

五十嵐 とにかく一度機械を使って見たかったのです。家政科の友達によく機械で調べていましたし、みんなも便利だと言っていました。

萬谷 冷房がきいていて気持ちが良いので、夏は花川館に決めています。

私は人がいると落ち着かないので、花川館は人がまばらで、とっても落ち着くのです。椅子も座りやすいし…

司会 すでにずいぶんお話の中でも出てきましたが、購入希望のシステムは皆さん知っていますか？

全員 はい。

司会 では、どういう場合に購入希望を出していますか？

角尾 読みたいけれども、中身がわからなくて買うかどうか悩むとき、4～5千円するものを頑張って買って見ても、はずれだったら悲しいですし、専門分野の本だったら買っていいのですが、それ以外でしたら、読んだ後、手元に置かなくてもいい本が多いので、そういう場合に利用させてもらっています。又、高くて買えない本が多すぎるので、図書館を利用しています。今まで購入希望で出したものは、全部入れてもらっているのを助かっています。

沖寄 やはり高くて買えないものを出しています。

五十嵐 利用したことがないです。

萬谷 書店をぶらぶらしていると、面白そうだなと思うものが6～7冊は見つかるのです。あまり千円以上のものは買う気にならないですし…本屋さんで見ている、面白そうだなと思う時や自分で買うまでもない時に利用させてもらっています。

司会 通常の貸出が2週間になって、2年目ですけれども、いかがですか？

角尾 やはり2週間の方がいいですね。更新するのが減って楽になりました。今でも、時々延滞してしまうのですけれども、だいぶ楽になりました。

五十嵐 私は、読むのも遅いですし、じっくり読むのが好きな方なので、前はよく読みきれずに返すことがありました。そんなときはとても切ない気がしていました。

☆。

☆。

☆。

☆。

☆。

☆。

角尾

☆。

☆。

☆。

☆。

☆

萬谷 私は、他の図書館も利用していますが、他は期間が2週間なので、1週間というのは短い気がしていました。2週間になって、普通並みだと思っています。

司会 試験前は、特定の資料に利用が集中することが多いので、期間を短縮していますが、短縮期間に予約待ちをしたことはありますか？

全員 そういう経験はありません。

角尾 大体、誰が借りているかわかるので、借りている人にコピーをさせてもらっています。1人の人の持ちきりになることはないです。

萬谷 できれば、レポートや試験関係の本は1週間でも、その他の本は2週間にしてほしいです。でも区別が難しいかもしれせんね。

五十嵐 試験が終わったら長く借りられる！と思って、試験が終わるのを楽しみにしています。

司会 長期休暇の10冊の貸出冊数は、十分に利用していますか？

角尾 持ち帰るのが大変なので、10冊全部を借りたことはないです。休み中でも読み終わったら学校に返しに来て、また借りるようにしています。

司会 4年生は常時10冊まで借りれるようになっていますが。

角尾 いつも5冊ぐらいしか借りていないです。

司会 確かに学生さんの様子を見ると、あまりたくさん借りると、自分でどれぐらい借りているかわからなくなる人がいるようですね。そして、気がついたときには延滞してしまっていたり…自分では更新しているつもりでいたものだから、ついには貸出停止までになってしまった人もいますよ。

角尾 私の友達も、10冊でひとまず足りてい

るようです。1度に使える冊数は、ある程度限られているように思います。

五十嵐 私のことを言えば、アルバイトなどで、毎日本を手取るのは難しいので、これぐらいでちょうど良いようです。

司会 長期貸出の返却日が、1日ずつずれているのはどう思いますか？

萬谷 結構忘れてしまうことがあるので、一律の返却日にしてはどうでしょうか？

司会 実は、ずらすことで返却日を振り分けていたんですけども…

五十嵐 そういえば私の友達で、借りてきて早々に読み終えて、休み明けに返そうと思っていたのに、すっかり忘れてしまってあせっていた人がいました。

司会 返却期日票は見ていますか？

萬谷 しおりにしてしまうときがあります。

司会 返却期日票は、返却日を示しているのと同時に、どちらの図書館で借りたのかがわかるようになっているので、きちんと入れておくようにして下さいね。最後になりますが、何かご意見・ご質問はありませんか？

萬谷 静かに勉強できる部屋や、ゼミ室のようにみんなで一緒に勉強できる部屋があればいいですね。それと寒いときがあるので、もう少し暖かくしてもらえたら嬉しいです。

司会 今日は長い時間おつきあい下さいまして、どうもありがとうございました。

スペースの都合上、省略させていただきましたが、詳しく読みたい方は、冊子体のものを、図書館においておきますので、ご自由にご覧下さい。



## 卒業生からのメッセージ

卒業生 中嶋 みゆき（文学部国文学科 第11回生）

私は昭和49年に藤女子大学を卒業しましたので、相当昔の卒業生ということになりますが、昨年、北海道教育大学の第二回目の大学院の試験を受けてみた所、運良く合格し、現在は、何と約二十年ぶりで、学生となり大学に通っています。藤女子大卒業後は主に私立・公立（市立）高校の非常勤講師として働いてきましたが、約七年前に、俄かに中世の軍記物語—平家物語を中心に今日では太平記に至る—の研究に目覚め、口頭発表を主とする形で勉強を進めていますが、この研究の勉強に欠かせないのが、充実した図書を有する図書館の存在です。私達卒業

生は、当初は館内閲覧のみが許されていたように思います。つまり、図書の貸出は許されてはいなかったのです。しかしやがて一週間程の貸出が許され、今日では二週間の期間の借り出しが可能となりました。冊数も増加してきたように思います。このような、卒業生に対する図書館利用の充実と、私の研究の活発化とは無縁ではなく、むしろはっきりとした比例関係があるようにすら思えます。閲覧のみでは十分に本の内容を吸収する事は無理があります。コピーも発達していますが、限界があります。（確か中国には、”本は盗んでもよい”といった諺があ

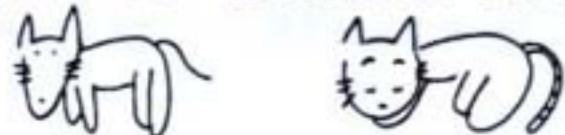
ったように思います。大変物騒な、怪しからぬ言にお思いでしょうが、それ位必要な時もありえるように思います。) 全てが開架で書庫にも自由に入室でき、他の図書館に紹介していただくサービスも簡単に受けられる。コピーすら請求していただけるのです。又、国文学関係の蔵書はもとより、論文が具体的に発表されている雑誌類の充実は国公立大学をしのぐものがあるのではないのでしょうか。(教育大は講座制で専門書は個々の先生の研究室の書架に取められています。) この国文学関係の図書は充実度は実際教育大の司書の方たちも一目置く所で、緻密な、又、遺漏のない図書の収集によって私達の調査の幅が広がり、正確なものになってゆく事を大変嬉しく思っています。借り出し期間については、教育大の方は一応院生ということで、20冊まで一ヶ月間という優遇された状態で、夏期休暇中の長期貸出もかなり長く、このような恩恵を生かさなないわけにはゆきません。願わくば、藤大の図書館でも、「社会人枠」として一ヶ月の長期の貸出の通常化が許される、近い将来それが実現される事を実はひそかに願っているのですが、(返却日を応々にして遅れがちです。) 利用者の多さからいうと無理のある事なのではないでしょうか。

さて、このように図書館の利用者としては大変恵まれた状況になりつつあるわけで、常日頃から図書館と、図書館員の皆様には一方ならぬお世話になっている者として、今回の大学院入学を機に一言お礼と感謝の言葉を述べたかったというのが、本文の執筆を希望した動機です。藤大もキャンパスが花川にもでき、北16条は少し淋しくなった気がしますが、この豊富な専門書と蔵書とを仮りに一般の方にも解放する。その為には無論有料化もありうる。一年会費という形ででも徴収する。それによっては夜間の開館もあり得る。アメリカの大学などでは早くから夜間開館があるようですが。このものでは、などと勝手に自分の都合の良い事を考えたりしま

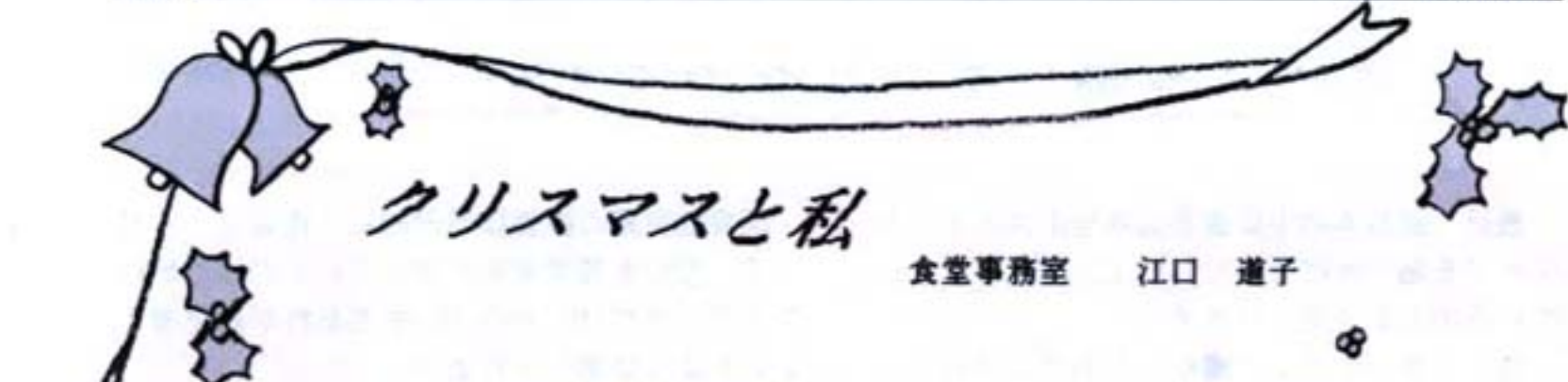
すが、例え有料化したとしても、開館・解放の意義は大きいのではないかと思います。地の利、便利さから言っても北16条は地下鉄を控えていますし、私のように、社会に出てから(大分経ってから)また進学の道が開かれるような世の中になりつつあるようですので、勉強、調査、研究が充実した図書館の存在によって強力に推し進められたならば、学生としてこれ以上の幸せはないと考えるからです。そういう意味では又、私は藤女子大の学生の皆さんに大学院に進学することをもおすすめる次第です。進学し、研究する事において、その先に何かあるのかということは私は敢えて問わない事にします。古風な教養主義に立つと、自分自身の満足が得られたならばそれで良いではないかと考えるからです。読み、知り、考え、さらに調べることによってその人自身が得難い充実と喜びと、更に(何かしら、の)発見があるとすれば、これに勝る事はないのであって、その社会的意味はやがて明らかになる事であって、学ぶよろこびの優先こそ進学の真の意味と考えます。

現在、私は市内の高校で六時間の時間講師もしています。三・四月には、高校に迷惑をおかけしてはならない、生徒さん達に不利な事があるてはならないと勤務を断る気持ちが強かったのですが、学校の御好意で時間割を工夫して下さり、かけ持ちで働いています。楽しくお話しする時間というものがほとんど無くなったのは残念ですが、時間講師という職分については、学校の成員の問題として、学校経営論のゼミの際などに恰好のレポートの素材となりそうなので、一つまとめてみたいと考えている所です。(国語科教育という専攻ですので、学校教育関係の単位と文学の専門とが並行しています。)

このように私の一日は早朝からめまぐるしくトタバタと展開していますが、再び学生となって習い読み知る事は、やはり独学では得難い広さをもっています。自己充実を願う事頻です。







## クリスマスと私

食堂事務室 江口 道子

私とクリスマスとの思い出を段階的二年代的に思い出してみますと、クリスマス料理の思い出は友人との思い出につながるものです。

パート1は中学生の頃（昭和30年代）です。これは友人宅での子供クリスマス会のことです。舞台は石炭ストーブの燃える部屋でした。

大きな鶏を一羽丸ごとゆでたものをテーブルに飾り、それを切り分けて食卓塩をふって食べました。そのまわりを見るとセロリのスティック、クリスマスケーキ、赤いりんごやみかんそしてコココーラもありました。これが豊かな国アメリカのご馳走なんだわと、目から鱗がとれたような気分でながめたのを今もはっきりと覚えています。パート2。栄養コースを卒業した後、一人っ子の従姉妹をよんでクリスマス料理の定番、ローストチキン他を時間をかけて作りました。作ることも食べることも楽しい時でした。パート3。友人宅は子供が小さく、私はクリスマスケーキを持参しては、食べる人でした。輸入食品も出廻り、ナチュラルチーズ、ビール、ドイツワインを味わっては未知なる味を知ること喜びを感じていました。ローストチキンから脱皮して、ローストビーフ、拌々鶏、おすし等その年その年で和洋中が混在してテーブルに並べられていました。パート4。友人も子供から手がはなれ、自分自身を振り返ることのできる時を迎えました。お料理はシンプルで油の少ないあっさりしたものに移り、牛タタキ、お刺身、ディップ等、デパートには既製品が沢山ありますので自然とクリスマスのお料理も手作りだけから持ち寄り形式になり、私が珍しいチーズ、ハム、おすし等々を買っては好奇心をもっ

て友人と味わったり、料理と器をながめては楽しんでいる現在です。パート5。あと数年で幕開けです。先のことですが過去、現在と比較してどんな展開になるものか今から楽しみにしています。毎年、12月25日クリスマス友人宅で1月8日はわが家でお正月をどんなお料理で迎えることができるのかを、経済、物質的にも恵まれた現在は、お金を上手に使って既製品を並べてもクリスマスができます。一方材料を買い本を見ながらお料理を丁寧に作るのも楽しいことではないでしょうか。献立は簡単なものでも10人10色、同じものはありません。

クリスマスの飾りには赤色と緑色がよく使われます。赤はキリストの血を、緑は永遠の命を象徴しているものだそうです。このことをふまえて、牛タタキ、イクラ、ミニトマトの赤、生野菜の緑、ブロッコリー、かぼちゃをゆでっばなしにして盛り、ソースに一工夫するのも健康的。各人各様の感性でお料理を演出してみたいかがでしょうか。そして節目節目の12月24日、25日のできごとを私のクリスマス史として心にもつのも最高の贅沢なのではとパート5を目前に私は思い回しております。

図書館では、ただいまクリスマス展示をしております。一足早い、クリスマスの気分を味わって下さいませ。

## このごろ感じることなのですが...

最近、返却本の中に書き込みやポストイットテープを貼りっぱなしにしたままの状態になっているのをよく見かけます。

特に、ボールペンで書かれたものは手のほどこしようもなく係泣かせの代物です。ポストイットテープも、長い間つけっぱなしにしておくと、とるときに印刷された文字も一緒にはがしてしまって、本を痛める原因になります。

書き込み禁止は言うまでもないことですが、ポストイットテープを貼るのも最小限にして、日頃お世話になっている本達を少しいたわってあげて欲しいものです。

皆さん、講義のときにはきちんと自分の辞書を持ってきていますか？



## 冬休みの図書館

冬季休暇中の開館日、開館時間は下記のとおりです。詳しくは掲示板をご覧ください。

- <開館日> 12月16日(木)～12月21日(火)  
1月10日(月)～1月14日(金)
- <開館時間> 9:30～16:00 (土は12:30まで)
- <閉館日> 12月22日(水)～1月8日(土)

長期貸出は12月9日(木)より開始します。  
なお、12月16日からは冊数を一人10冊までとします。

図書館所蔵の辞書は原則的に一夜貸出のみ可です。やむを得ず貸出を許しているのは、忘れてきたときだけ。そのうっかり忘れが最近増えているように感じられます。

勉強するときは、やはり自分のものが一番! だと思うのですが...

そして、もう一つ。館内は、のり、ハサミ、カッター類の使用は禁止しているはずなのですが、使用している方が目につくようになりました。もし、どうしても...というのでしたら、カウンターに申し出て下さい。こちらからお貸しします。ただし、使用する場所はカウンター&記載台の上に限定されますけれども...

### 卒業を控えた学生さんへ

今回の図書館だよりを読んで下さって、知った方もいるかと思いますが、本学の図書館では卒業生の皆さんにも、本をお貸ししています。

どうぞ、ご利用下さい。詳しくは卒業生用のパンフレットをご覧ください。

藤女子大学 図書館だより 第44号 1993. 12. 15

発行者 札幌市北区北16条西2丁目 藤女子大学図書館  
TEL 011-736-0311代 FAX 011-709-4770